

令和5年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松友会	代表者	理事長 池田 佳子	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・法人グループ内で、グループホーム、特別養護老人ホーム等入所系施設があり、また居宅介護支援事業所、デイ、ショート等居宅系事業所もあり、総合的・継続的なサービスが提供できます。 ・事業所名である「オハナ」にはハワイ語で家族という意味があります。お互いに助け合うことをいとわない親しい友人や仲間のこともオハナと呼ぶことがあります。そうした関係性を大事にし、顔なじみのスタッフがご利用者個々のニーズに沿って柔軟な対応を行い、ご自宅、地域での生活をご支援します。また食事は施設内厨房で手作りし、季節にあった料理を提供しています。
事業所名	ピースフルライフ オハナ	管理者	山崎 琢磨		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	1人	1人	0人	2人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	WEB、リモートの研修にも参加できる環境を整える。感染状況を考慮しながら外部研修にも参加していく。「接遇」「ケアマネジメント」「レクリエーション」「重度者の介護方法」「医療対応」などの研修に参加していく。	リモート研修への環境整備は十分に整える事が出来ず、外部研修への参加については決まった職員のみが参加していた。参加できなかった研修については、内部研修を行った。	特になし	法人内・外の研修へと参加していく。研修に参加した職員が講師役となり、事業所職員向けに研修を行う。前回に引き続き、リモート研修が行えるように環境整備を整える。
B. 事業所のしつらえ・環境	外から見える部分だけではなく、クローゼットの中の整頓、倉庫バックヤードなどの整頓を心掛け、ご利用者、スタッフ、来訪者が気持ちよく過ごせる環境を整える。感染症対策はクラスターが発生した経験を活かし、今後も継続していく。	感染対策、クラスター予防のために整理整頓や事業所の清掃を行って来た。環境を意識した取り組みにより来訪者への配慮にも繋げる事が出来た。	特になし	引き続き、クラスターの予防対策として環境整備と感染症対策を継続していく。地域の方や見学希望者が気持ちよく来訪できるようにしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	新型コロナの感染状況をみながら、運営推進会議のメンバーをはじめ、地域の方々防災訓練の見学や参加をお願いしていく。各包括支援センターが実施している認知症カフェにスタッフやご利用者を含め参加できる機会をもち、地域で行われている活動に関する知識の向上を図る。	地域の防災訓練や防犯パトロールへ参加する事が出来、交流を図るきっかけは作れたと感じる。新型コロナやインフルエンザの流行もある為に外部の方々へは事業所の行事への参加は控えて頂いているが、感染症対策に留意しながら地域の方の関われる機会を作っていく。	認知症カフェへの参加またお待ちします。	地域で行われている、防災訓練や防犯パトロールに参加し、地域での活動へ理解を深めていく。認知症カフェへもスタッフが参加していき、地域活動への知識を高めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	運営推進会議での情報交換や地域ケア会議への参加を通して、地域の実情や問題ケース、解決方法の検討や解決に至るなどを知ることにより、社会資源の活用方法や情報を把握し、知識の向上に努める	運営推進会議や地域ケア会議に参加できたことは地域での実情を知るきっかけとなった。	特になし	地域の方との情報交換を生かして、必要としている地域資源がどのような物なのか知る。地域にある社会資源をご家族に提供し自宅での介護への助けとなる様に情報の提供も行っていく。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議での情報発信だけではなく、地域活動、社会資源の活動に出向き、情報把握とともに事業所やサービス内容を地域の方に知っていただけるようにする。職能団体の研修や交流などには積極的に参加していく。</p>	<p>運営推進会議を開催したことにより、地域活動の把握に繋がった。また、他事業所での活動実態や、コロナ感染症を含む緊急時対策などの取り組み方法などを共有する事が出来た。</p>	<p>報告や取り組みなどいつもきちんとされていると思います。</p>	<p>運営推進会議での情報の共有により、地域に向けて事業所の役割を知ってもらう機会としていく。地域活動を把握していき参加していく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>BCPを基本とした、災害発生時及び災害発生後の対応訓練、業務継続の訓練を法人全体で実施する。感染症対応の経験をもとに対応を振り返り、大気的に訓練、研修を実施していく</p>	<p>BCPの作成は、各職員の災害時の対応への明確な指針となった。災害発生時を想定した災害対策訓練への見直しが図れた。</p>	<p>特になし</p>	<p>実際の災害を想定した訓練を行っていく。市内のハザードマップにて危険個所の共有を図る。各職員の通勤ルート上の危険区域をそれぞれが把握する。</p>